-

令和８年度第２回江南市地域公共交通会議　会議録

●日　　時　令和８年９月３０日（水）　午後３時～午後４時 30 分
●場　　所　江南市役所３階　第３委員会室
出席者 16 名　夫馬　康昌（代理：平田　浩一)、臼井　雅宏、森稔、若林　亨修、小林　裕之、鈴木　浩示、高橋　正博、青山　多佳子、磯部　友彦、原田　光一郎、高臣　綾子（代理：天野　雄三)、藤原　英智、栗本　浩一、長谷川　雅敏（代理：大藪　宏樹)、近藤　和彦、鵜飼　篤市
欠席　１名　伊藤　和喜
●傍聴者数　３名
●資　　料
資料１：江南市地域公共交通計画（案）

-

開会（午後３時 00 分）

〇会長あいさつ

会　長　皆様、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。9 月は大雨でいろんな対応をされていたかと思います。交通はただ単に動くだけでなく、安全で安心で退避できる場所の重要さを感じました。動くことが良いのではなく、動かないことも大切であると感じました。本日はよろしくお願いいたします。

〇議題　協議事項
１．江南市地域公共交通計画案について
（資料１）

会　長　　それでは協議事項に入ります。「江南市地域公共交通計画案について」事務局より説明をお願いします。

事務局　　資料 1 に基づき説明

会　長　　質問がないので、わたくしから質問いたします。8 章「計画目標と目標達成するために実施する事業」のスケジュールは検討の余地があるとのことでしたが、P.62 の「施策：新たな公共交通の導入検討」で施策の⑤.⑥.⑦の語尾が「～を検討します。」で表記されており、検討はどのような作業となりますか。実施する等の表現になりませんか。

事務局　　施策⑤「地域での新たな公共交通の導入の検討」につきましては、実施に向けた検討との意味合いでの表現となりました。予算確保ができなければ実現が難しいため、及び腰の表現となっています。
施策⑥「企業バス等送迎バスの活用の検討」につきましては、企業送迎バスについて昨年度江南・布袋駅で調査を行い、その中で１社と活用の可能性について協議を行っています。企業バスに対する市民の方のニーズを確認し、需要があれば実現に向けて協議を進めてまいります。
施策⑦「シェアサイクルの導入の検討」につきましては、昨年度の基礎調査のアンケートで全体的には利用に向けての支持は高くないが、若年層に限ると支持が高いとの結果から、長期的な目線で導入の検討が必要である

-

と考えます。

会　長　施策のタイトルは「～の検討」でよいかと思いますが、事業内容の説明部分については検討するの表現を工夫すべきだと思います。

副会長　P.60 の基本方針 2 の、評価指標 2-3「関係者が連携・協働した取り組みの件数」で現況値（R7）が 7 件とありますが、この内訳を教えてください。また注釈の計画期間の累計件数とありますが、どのような内容か説明をお願いします。

事務局　P.60 評価指標 2-3「関係者が連携・協働した取り組みの件数」7 件の内訳ですが、いこまい CAR 関連でタクシー事業者 3 社、市内の赤字路線で補助を行っている名鉄バスとの連携、江南市へ乗入している大口町コミュニティバスで大口町との連携、イベント関係で昨年度はちびっこバス運転士体験をアピタ江南西店で実施したことによる連携、チョイソコふそうで江南厚生病院へ乗入している扶桑町との連携で合計 7 件と表現しています。計画期間の累計件数につきましては、累計の表現が正しくないため、計画期間の件数と訂正させていただきます。

副会長　説明がありました扶桑町との連携について、チョイソコふそうの乗入は、江南市民が利用できないため、件数に含まないほうが良いのでしょうか。

事務局　江南市民はチョイソコふそうを利用できないため、件数を 6 件に訂正いたします。

委　員　P.59 基本方針 1、評価指標 1-3 の「公共交通の不便度」について、評価をするのが大変かと思いますが、アンケート等を実施しないと評価ができないため、どのくらいの期間で実施するか教えていただきたいです。

事務局　P.59 基本方針 1、評価指標 1-3 の「公共交通の不便度」につきましては、令和 7 年度に実施した公共交通基礎調査の中で、市民 2,000 人を対象にしたアンケートの回答結果の数値となります。今後は、公共交通計画の見直しの時期での実施を想定しています。しかし毎年大掛かりなアンケートの実施は困難であるため、市のホームページ等でインターネットアンケートの実施を検討しています。

-

会　長　　調査の方法は様々な工夫が必要になるかと思います。異なる方法で調査を実施すると数値が変わる可能性があるため、慎重に計画し、調査をしていただきたいです。また、令和 7 年度に大掛かりな調査を実施したので、5 年後あたりで同じ規模の調査を予定しているのでしょうか。

事務局　　公共交通計画につきましては、10 年計画で考えておりますが、5 年毎に計画の見直しを検討しております。昨年度実施した公共交通基礎調査と同様な調査を実施できればと考えております。

委　員　　1 点目は資料で提示している評価指標について、評価の実施は 5 年毎なのか毎年実施していくのでしょうか。2 点目は P.56 の表「市内の移動サービスの位置づけと役割」の中に新たな公共交通がありますが、対象が未定とあります。その中で北部地区の 3 か所で地域懇談会を実施していたかと思います。北部地域を対象としたアンケートの回覧が回ってきましたが、同時進行しながら計画に組み込んでいくのか、検討しつつ並行して会議の中で報告していくのか教えてください。

事務局　　資料で提示している評価指標につきまして、第 1 回の公共交通会議で自己評価を行っておりますが、これが新しい公共交通計画で示した指標に置き換わって毎年度行う予定としております。北部地域の新たな公共交通につきましては、北部地域の住民を対象として新たな公共交通に関するアンケートを実施しました。10 月 23 日を回答期日としております。アンケートにつきましては、北部地域の区で回覧を依頼し、懇談会資料の抜粋をつけて住民の方に確認いただく形をとっています。回答方法はインターネット形式で、回覧した資料の QR コードを読み取って回答し、詳しい資料のリンクがあるため確認していただく形としています。
アンケートと同じく北部地域で回覧をお願いさせていただいたのは、北部地域の住民を対象とした懇談会開催に伴い、ご案内をいたしました。日程は 10 月末から 11 月の上旬にかけてすいとぴあ江南、古北にじいろ会館、宮田地区学習等供用施設、江南団地の 4 会場で開催を予定しています。
現在の公共交通計画案では新たな公共交通は未定となっております。同時進行で新たな公共交通について検討を進めておりますので、可能な範囲で公共交通会議に新たな情報を織り込みながら協議を進めていきたいと考えています。具体的な案については現在未定であるため、公共交通計画で反映される範囲は限定的になると思われます。

-

会　長　　公共交通計画の中で大きな枠組みは確定し、その中で実際に地域での活動が大きな括りの計画に基づいて進んでいくとの流れでよろしいかと思います。計画は定まっていませんが、既に動き出したとの関係性の方が進めやすいのではと思います。

事務局　　公共交通計画策定を進めていく中で、新しい公共交通を検討し、整理していきたいと思います。

会　長　　その他ご意見ありますか。

委　員　　新しい公共交通については、前回の会議から話が出ているかと思います。この計画は令和 9 年から令和 18 年までの 10 年間の計画であると思います。施策の中に検討とあるため、今回の計画期間は検討をし、次の計画で考えるようにも捉えられます。この 10 年間で実証または実現できるように積極的な表現をしていただきたいです。検討だけで終わることなく、実施に向けた具体的な内容を組み込むべきではないでしょうか。

会　長　　導入・検討の部分で先ほども申し上げましたが、時間軸を令和 9～13 年と細かく区切るか、10 年間をまとめたスケジュールとするのか工夫が必要かと思います。できるかできないかの文言で終わらないようにしていただきたいです。

事務局　　P.51 から P.63 につきましては、事業内容、実施主体を記載しておりますが、最終的なイメージはその下の部分にスケジュールを記載する形を考えております。その前に事業内容について委員の皆様からのご意見をいただくためにスケジュールを記載しておりません。次回の公共交通会議ではスケジュールを含めて議論いただければと考えております。

会　長　　実現ができるように計画を作っていきましょう。

委　員　　P.60 の評価指標について確認させていただきます。いこまい CAR に関する評価指標が 2 つあり、評価指標 3-3「いこまい CAR の利用登録者数の目標」が現状以上とあります。利用登録者が増加することで実利用者が増えるかと思います。それに反して評価指標 2-2「いこまい CAR の運行に係る市負担額」で目標値が現状程度と記載があり、評価指標 3-3「いこまい CAR の利用登録者数の目標」を進め、運賃の半額を負担すると市の負担額は増

-

額し相反する指標ではないでしょうか。また、評価指標 2-1 で「名鉄バス補助路線の経常経費に対する補助金の割合」についてですが、利用者数が伸びて運賃も上がれば、補助金が下がるかと思います。しかし物価上昇や人件費等の諸経費の値上がりしている中、補助金が現状以下となるのか疑問に思いました。

会　長　　補助金に対するご意見でありましたが、委員からの視点でお話しすると補助金に上限があり、一定額以上は出せないとの意思なのかと見えてしまうので、目標値の現状以下にするとの表現が実用された場合どうかなと補足させていただきました。事務局いかがでしょうか。

事務局　　P.58 の評価指標 3-3「いこまい CAR の利用登録者数の目標」を記載した背景といたしましては、P.57 の基本方針と評価指標【各調査における主な課題】の青枠にあります「市 3 いこまい CAR の年齢による認知度や利用率の違いを分析し、制度の見直しを検討する」を課題として挙げております。一定の利用者に限らず、いろんな人が必要な分だけいこまい CAR を利用する制度への見直し等を検討し、市の負担金を抑えながら登録者数が増加できないかとの背景があり、指標としております。利用者数ではなく、登録者に対する利用者の割合、利用率を指標とするのも内部で検討しております。評価指標 2-1 で「名鉄バス補助路線の経常経費に対する補助金の割合」が現況以下とする目標についてですが、負担すべき路線を持続可能な公共交通として市が維持する路線はどこか等検討する必要があると考えています。諸経費が上昇しているのは承知していますが、路線の減便や廃止を検討する材料として、この指標を活用できるのではないかと考えております。

会　長　　いこまい CAR を誰に使ってもらいたいかの話だと思います。実際利用しているのは高齢者が多く、その方たちが他の交通手段が使いにくく、いこまい CAR があることで助けている事実や位置づけがある。その一方で上手に使っていただきたいのは路線バスと同様の公共交通であるため、幅広く市民の方に利用して欲しいと両方の側面があると感じたので、整理して資料作りをお願いしたいと思います。お金の問題はシビアだと思います。評価指標よりも市側のメッセージとも捉えられてしまうので一つの指標として示していくのかなと思いました。ただ、お金がないからバスを廃止にするとの言い方は少し乱暴かなと思いました。交通事業者がいての公共交通であり、整理をして指標の数値を扱わないと間違った解釈に繋がらないよう

-

にお願いします。委員は評価指標 2-1 のような指標はどのようにお考えですか。

委　員　経費を抑えようとすると利用者利便の低下に繋がるので配慮いただきたい一方で、市の財政問題もあるので難しい問題だと思います。経費は物価上昇で増加していくのであれば、利用者数の増加や収入を増やしていく方向性で経費を抑える。それ以外に企業からの協賛や別の方法で収入を増やすことで市の負担を減らす方法を検討していただければと思います。

委　員　利用者を増やすとの意見で、私自身も江南駅から厚生病院までバスを利用しています。道を広げるのは大掛かりな話ではあるかと思いますが、朝の通勤時間を含めて慢性的に渋滞しています。バスが退避できる部分の確保、できれば右折する交差点や道を 2 車線にすれば利便性が上がることで利用者の増加に繋がるのではないでしょうか。

事務局　バスを利用している方の貴重なご意見ありがとうございます。江南病院線の通りが昔から多様な飲食店や商業施設が多い道であり、利用者が多いためバスが運行しております。道路の拡張は難しい面がございますが、名鉄バスとの協議や検討をしていきます。

委　員　10 年計画で 5 年に 1 度の見直し、評価は毎年実施するとのことですが、目標値が現状以上や現状以下が多いと感じました。なかなか数値を出すのが難しいのかと思いますが、目標値が何年の目標値か分からず、項目を分けて具体的な数値があると良いのではないでしょうか。例えば評価指標 1-1「市内の公共交通総利用者数」は、総じて利用者数が増えれば良いかもしれませんが、市はいこまい CAR が増えると負担が増加するので、細かく項目分けを行い、それぞれに対して目標値をいくつにするのか。目標値に届かないと思うので、毎年公共交通会議で評価し、見直しを行うことが、より具体的になると思います。スケジュールの記載もあれば何年後にどのようなものが出来ているかを具体的に確認できたと思うので、ご意見させていただきました。

会　長　指標の意味を慎重に検討すべきとの意見と目標値がいつの目標値か、事業のスケジュールもあわせて再整理をお願いしたいとのことでした。

事務局　P.59 から P.60 の基本方針に対する評価指標、現況値、目標値しかありせ

-

んが、10 年計画で 5 年が中間見直しであり、イメージは 5 年後の目標と 10 年後の目標を数値として表すようにしたいと思います。スケジュールにつきましては、施策内容の協議を主題としたい意向があり、議題を先行しないように考慮いたしました。

会　長　　改めて再整理をお願いいたします。評価指標の設定は他の市町村でも悩ましい部分であります。設定して評価できるかの問題もあるため、指標が持つ意味が分かりやすく、かつ毎年評価しやすく、地域の公共交通が良くなる指標が良いかと思います。
9 章については説明はなしでよろしかったでしょうか。

事務局　　9 章については、説明資料がございませんので、次回の公共交通会議で説明いたします。

会　長　　協議事項として江南市地域公共交通計画案について協議してきましたが、他にご意見や気になることはございますか。
ご意見もありませんので協議事項はこれまでとさせていただきます。こ承認いただけるとのことでよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

〇その他

会　長　　その他ですが、「タクシー営業圏統合について」委員から説明をお願いします。

委　員　　「タクシー営業圏統合について」に基づき説明

会　長　　これまで尾張北部交通圏の枠がありましたので、一宮に所属するタクシーが江南市へ来て乗客を降ろすことができませんでした。圏域がなくなることで柔軟な対応が可能になったとのことです。他に委員の皆さまは何かございますか。「バス運転手になろう」について委員から説明をお願いします。

委　員　　当日配布資料「バス運転手になろう」に基づき説明。

-

会　長　　何かご質問はありますか。他に委員の皆さまは何かございますか。それでは、私の進行はこれまでとさせていただき、以降は事務局にお戻しいたします。

事務局　　議事進行していただきましてありがとうございました。委員の皆様方におかれましては、長時間にわたり貴重なご審議を賜りまして誠にありがとうございました。会議の中では、記載内容をより具体的に前向きにとの意見をいただきましたので、一度事務局で再度見直しをいたしまして、11 月頃に公共交通会議を開催する予定としております。改めてご審議のほどお願いしたいと思っております。以上をもちまして、令和 8 年度第 2 回江南市地域公共交通会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

閉会（午後４時 30 分）